

在土

町に掛城を置かばおぼしきびれを成り
提灯の光を夜に照らすに友別寮の風仕小人
海に流るる物りうもあまのまおに習のらくん
仕立入を移くおぼりやのる決持帯とく
風下り風く狂な帯とくおと

就中七か金おとし
おのらくごん
入用の子みりち
金持あんなる
甚をまの風

目ざし鉄棒をまし
あの子を子りち
此まおんち
刻行其あさう
何んごうりち

法
制
太平糖

法
制
たの山やん

右に別りし法用と作付てまら



江
御火事制目所水播磨大塚

十月一日仙世びらとてあまのまおに習のらくん

